カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 藤木博英社

教皇さまの意向

・宣教　キリスト者の共同体が、キリストの近くにいることを実感できるように
・日本　原発事故によって今もなお多くの人々が苦しみの中にあることを忘れないように

忘れることなく絶えず思い出す

中町教会で二十六聖人殉教記念ミサ

日本二十六聖人殉教祭（長崎大司教区主催、長崎南地区評議会担当）が2月3日（日）14時から行われた。今年は雨と強風のため、西坂の丘ではなく中町教会が会場となった。

ミサは高見三明大司教の主司式により、司祭36人、イタリアから参加した終身助祭1人、フィリピン、韓国、そのほか各地からの巡礼者を含め、聖堂内と信徒会館の会場を合わせて約800人が参加し、祈った。

ミサの説教師を務めた日本二十六聖人記念館館長のドメニコ・ヴィタリ師は、今回雨のため聖堂内でのミサとなったことについて、厳寒の中で苦しみに遭った殉教者たちを思うと申し訳ないという気持ちを表しながら、それでも集まって記念するのは「わたしたちが忘れることなく絶えず思い出し、どのようなことがあっても彼らの強い信仰をもって生きていくということ」だと話した。そして、「証し人になるということは、目に見えないものを確実なものとしてすべてを懸け、命も懸けて示すということ。信仰は単なる言葉ではなく、証しに基づいている信仰」だと語った。「わたしたちが何を一番大事にするか、どういうことのために命を費やしていくか、殉教者たちによってわたしたちはいつもそのことを問われています」

また、浦上四番崩れで津和野に流された人々のことにも触れ、「毎日祈りをしながら家庭の中で信仰の強さをいただいたが、今はそれが弱くなっているのではないかと思う」と危機感ににじませた。最後に、信者として生きる私たちが、与えられた使命を「家族の中、社会の中で」証ししていくことができるよう努めましょう、と呼び掛けた。

ミサの終わりに高見大司教があいさつし、その中で、みせしめのためにと京都から長崎までの道をひきまわされた二十六聖人にとって、それはむしろイエス・キリストを証しするよい機会となったと語り、「最後までイエス様について行った聖人たちの生き方を、私たちはあらためて心に刻みたいと思う」と述べた。さらに大司教は、「今年11月下旬くらいになるでしょうか、教皇様が日本に来てくださいます。これ（訪日）は確実なことです。福音宣教の大きな一つの機会、はずみになればと思います」と喜びと希望を表し、教皇をお迎えするための準備と協力を求めた。

殉教祭から2日後、日本二十六聖人殉教者の祝日である2月5日には、西坂・聖フィリッポ教会で連続ミサとゆるしの秘跡が行われた。

「福岡カトリック神学院」について

日本カトリック神学院
福岡キャンパス責任者　湯浅 俊治

このたび、日本カトリック神学院福岡キャンパスは、次年度4月1日から「福岡カトリック神学院」となり、大神学校として新たな船出を迎えることになりました。

かつて2つあった大神学校（「東京カトリック神学院」と「福岡サン・スルピス大神学院」）が2009年に一つになって、日本16教区の神学生が一つの神学校で共に養成されるということには大きな意義がありました。私たちの時代には無かった、地域を越えた、また3つの教会管区を越えた同じ神学校としての連帯感が生まれました。しかしその反面、6年間の養成が2カ所（東京と福岡）に分けてなされることになったため、仮に同じ精神で養成されるにしても、この距離感が共に生活することのない学年を生み出したことも確かでした。結局、この点が解決困難となり、あらためて東京と福岡に独立した神学校が設立されることとなりました。

かつての福岡サン・スルピス大神学院は九州・沖縄地域に設立された地域神学校でしたが、新たに設立される神学院は九州・沖縄の5教区のための諸教区共立の神学校です。すでに教皇庁の福音宣教省からは設立許可を得ましたし、かつてのように「サン・スルピス司祭会に神学生の養成を委託する」と5名の司教様方が決められ、そのための契約を同会管区長と結ばれました。

昨年の12月、新神学院の入学志願者の入学審査が行われ、6名が新メンバーとして入学する予定です。在校生と合わせて、総数17名の神学生（助祭が4名、神学科3年が6名、哲学科2年が1名、新入生である哲学科1年が6名）でのスタートとなる見込みです。ただ、神学科2年と1年に神学生が不在で、このまま司祭志願者が増えなければ先行き不安ではあります。

また、これまでの養成システムも大きく変更されます。2016年に教皇庁・聖職者省から新たな養成方針を定める「司祭養成綱要」が出され、それをもとに各国の司教協議会が独自の綱要を作成するようにとの指示が出されました。これからはこれを基盤に養成していくことになりますが、新たな養成システムでは直に志願者が大神学校に入って来ることはありませんし、また養成期間も少し長くなります。司祭養成が大きな転換期を迎えていることは事実ですが、天の御父が日本の神学校を導いて、司祭というお恵みをお与えくださることでしょう。

これからも、東京と福岡に設立される神学院とそこで養成される神学生たちのため、引き続きお祈りし、お支えいただければ幸いです。今後とも、よろしくお願いいたします。

教皇フランシスコ「11月に日本訪問の意向」

バチカン・ニュースによると、教皇フランシスコは1月23日、ワールドユースデー（WYD）大会のためにパナマに向かう特別機の中で、今年11月に日本を訪問する意向を表された。

訪日をめぐる日本人記者からの質問に対し、「11月に日本に行くでしょう、心の準備をしてください」と答えられたという。

マチア 橋口朝光（ともみつ）神父 帰天

1月13日午前1時30分、心筋梗塞のため逝去。64歳。

1954年5月21日長崎市生まれ。出津教会出身。82年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年4月長崎カトリック神学院。88年3月鯛之浦教会助任。同年7月宝亀、96年浦頭、2004年真手ノ浦、08年飽の浦、11年青方で主任。17年から相浦教会主任・佐世保地区長を務めていた。

仮通夜は1月13日相浦教会。通夜は14日浦上教会信徒会館、葬儀・告別式は15日午前11時から同教会聖堂で、高見三明大司教の司式により行われた。

通夜では叙階同期の山脇守師が、「彼は手先が器用で、手作りの小物をプレゼントしては喜ばれ、また、誰にでも気軽に声をかけることのできる宣教者だった」と語った。

告別式では相浦教会信徒を代表して山内茂雄氏が、「大人から子どもまで丁寧に司牧してくださり、たくさんのことを教えていただいた」と感謝を述べるとともに、突然に司祭を亡くした悲しみから、司祭らの健康を気遣う言葉が添えられた。

駄洒落好きで人情味があり、明るい笑い声がよく聞かれていた師の早すぎる帰天が惜しまれる。

会葬御礼

カトリック長崎大司教区司祭・マチア橋口朝光神父の逝去につきましては早速、ご丁重なる弔問・弔電ならびにご香典を賜り、葬儀の際にはご会葬・献花の弔意に接しましたうえ、各教会・修道院で故人のためにお祈りいただき、誠にありがたく厚く御礼申し上げます。

一々拝眉のうえ御礼申し上げるべきところ、紙上をもって代えさせていただきます。

二〇一九年一月

カトリック長崎大司教区
大司教　髙見三明

〝青年の力で、今、できることから〟

1月22日～27日、ワールドユースデーパナマ大会が開催された。フランシスコ教皇も臨席したこの大会に、日本からは青年の他、同伴した司教、司祭、修道者合わせて54人が参加。長崎教区からは青年と同行者計6人が現地を訪れた。参加者は皆、大会テーマ「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）のもと、キリストの受難と復活の神秘を祝う巡礼の旅を体験した。青年の感想を紹介する。

初めてWYD（ワールドユースデー）パナマ大会に参加しました。参加して思ったのは、同じ信仰を持った青年が、世界にこんなにもいるんだなぁということです。そして、カテケージス（要理教育）を見て思ったのは、あんな風に、テーマごとに一つ一つの意味をアニメーション（劇）という形で理解するのはとてもいいことだということです。子どもの頃から少しずつアニメーションという形で聖書に触れていれば、理解していくのが早かったのではないかと思っています。ひとりひとりが、ちゃんと自分の役をやりきっていたし、見ている人に質問を投げかけたり、ちゃんとお互いが理解できるようにしていたのがとても素敵でした。

ホームステイ先の家族の方々も優しく、言葉が通じなくても、アプリを使ったり、身振り手振りで会話ができ、とても安心でした。いろんなハプニングもありましたが、それを一緒に乗り越えていける日本の青年との絆は、これから先も忘れることはありません。

WYDを通して感じた、たくさんのお恵みに感謝して、神様の呼びかけに「はい」と応えることができるようになればと思います。

青年の持つ力で、今、できることから、教会を守っていかなければならない、未来に向けて希望をつないで、発信していかなければならないと私は感じました。

仲知教会　山添亜理沙

ほしかげ

高い山に登ると遠くまで見渡すことができる。長崎市北部で一番高い三ツ山の麓は、昔は浦上と同じ有馬領浦上村で、有馬氏の領地だった。有馬晴信の寄進により一時イエズス会の知行地となった歴史もある。迫害時代には大村領浦上木場村となり、古くからキリスト信者の住む土地である▲三つの峰が連なるところから通称三ツ山と呼ばれる帆場岳（標高506メートル）に登ると、長崎港を望むことができる。三つの峰のうち一番西側の山頂には、いくつかの板状の岩が港の方に向かって立ち並んでいる。まるで祈っているかのように。地元の人はそれを「拝み石」と呼んでいる▲潜伏時代、「七代後に告白を聞いてくれる司祭が黒船に乗ってやって来る」というバスチャンの予言を信じていた先祖たちは、山に登っては港の方を眺めて祈っていたと言い伝えられてきた。先祖たちのあつい信仰の歴史をそこに垣間見ることができる▲昨年、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界文化遺産に登録され、キリスト教の歴史や文化が人々の関心を集めるようになってきた▲また今年11月には、38年ぶりにパパ様の二度目の来日が実現する。カトリック信者のみならず、歓迎の期待に胸を膨らませている。それは、宣教師の到来を、今か今かと忍耐強く待ち続けていた潜伏キリシタンたちの思いに連なっていく。その心を大切にしたい。（良）

「喜びがなければ、だれの心も引き寄せられない」　教皇フランシスコ

宣教のための特別月間を過ごす③

私たちは皆宣教者
――宣教するキリストに倣って

聖パウロ女子修道会　長谷川 昌子
（元カトリック中央協議会広報部長）

洗礼の恵みを受けた私たちは、誰一人例外なく、宣教する使命を受けています。言葉で、あかしで福音を宣教するということは、カトリックの広報活動をしているということにもなります。

キリストを知る・知らせる

私たちの顔が一人一人違っているように、神様が私たちに与えてくださっている宣教の使命も違います。「私の生きていることが宣教よ」という人を知っています。多くの人が彼女をお見舞いし、逆に励まされています。存在そのもので宣教なさっているのです。また、常に「微笑みをたやさない」と決心している人もいます。その微笑みが持つ宣教の力は強力です。

カトリックの宣教広報の働きは、簡単には「カトリックの立場、見解など、伝えたいと思っていることを伝えること、また、その活動」ということになります。一言で言えば、「知らせる」ということです。「知らせる」ことによって、共感を呼び起こす、好感をもってもらう、社会的な信頼を得るというようなことが生まれてきます。ですから、伝える、教える、答える、ということが大切なことになります。

求められている資質

私たちが宣教広報活動の使命を十分に果たせるようになるために、私たち皆が、教会内、外の両方の面から求められている資質について、お話ししたいと思います。

知識 ―― 私たちはまず、カトリックについて伝えるべき内容、知識を持っている必要があります。その知識は非常に幅広いもので、カトリック信仰の教義内容から組織的なこと、聖書の知識など、広く深く知っているほど望ましいといえます。

教皇訪日の日程が取りざたされている昨今です。よく、注目していましょう。この知識は、いつも刷新されなければなりません。教会である私たち一人一人は生きています。同様に、組織としての教会も生きています。そして、世界の中、社会の中に生きています。ですから、カトリック関係の知識を得るように、常にアンテナを張り巡らしている必要があります。

私たち一人一人は、今、社会の中で、世界の中で、どんなことが注目を浴びている事柄かに気づき、「時のしるし」を読み取っておく必要があるのです。「宣教広報」という働きは、常に向学心を持って勉強し続けるよう促す働きです。

コミュニケーション能力・伝える能力 ―― 「知識」に次いで大切なことは、私たちの「コミュニケーション能力」です。いくら、カトリックについての豊かな知識があったとしても、それを伝えることができなくては、宝の持ち腐れということになりかねません。つまり、コミュニケーション能力が必要だということです。

コミュニケーションする能力は、人間にだけ与えられている神の恵みです。神の似姿としての人間の、いちばん神に似ているところは、コミュニケーションによって人と交わり、人と意思の疎通を図るということです。

さらに、コミュニケーションは無償の行為です。神は私たち人類に、ご自分の愛するひとり子・イエスを無償で送ってくださいました。私たちも、そのコミュニケーション行為を、宣教広報活動を通して行っているのです。つまり、宣教広報活動は、私たちが神のチャンネルになるということです。

このコミュニケーションのモデルは三位一体の神です。御父と御子と聖霊の間で交わされているコミュニケーションが私たちのモデルです。この点については、第二バチカン公会議の公文書として出されている『広報機関に関する教令』の司牧指針として出された『コミュニケーションと進歩』（1974年発行、教皇庁広報委員会著）の第一部「キリスト教的見解」のところを読んでくださればよくおわかりいただけると思います。

・コミュニケーションするということは、難しいことです。誤解されることもあります。それは、伝える側のコミュニケーションの力量、受ける側の器の大きさにも関係することです。しかし私たちは、カトリックの宣教広報に携わる人間として、どんな場合にも、コミュニケーションしていかなければならないのです。

・コミュニケーションのもう一つの側面は、私たちはコミュニケーションするとき、いつも自分を反映しているということです。伝えられた情報の真実さが、最も素朴なレベルにおいて、暗に話し手を反映せずにはいられないのです。

・しかし、私たちには、師キリストがいらっしゃいます。神のみ心を伝えるために、この世にお降りになられたみ言葉であるイエス・キリストがいらっしゃいます。このみ言葉であるキリストは、コミュニケーションの師です。イエスに倣い、彼からコミュニケーションの恵みをいただきましょう。

・コミュニケーション能力ということは、話すことによって伝えることだけを指していません。非常に口べたな人でも、素晴らしい文章を書く人もいます。その人は、文章でコミュニケーションするよう招かれています。

人柄 ―― コミュニケーションをするときは、話し手の人柄が内容を左右すると申しました。その意味で、宣教広報に携わる人は均衡の取れた人柄であることが要求されます。均衡の取れた人柄の中でも私たちに要求されていることは、まず、誠実さ、協働できる人、謙遜さなどです。

誠実さ ―― 昔から、新聞記者の資質として一番大切なものは、一に誠実、二に誠実、三に誠実であるといわれています。誠実な人は、人の心を惹きつけるものです。誠実さは、裏表のないこと、人との約束を破らないこと、人を裏切らないこと、そのような人は、信頼に値すると人から評価されます。

共に働く能力 ―― もう一つ大切な要素は、協働できる人であることです。

カトリックの教会の中に、素晴らしい能力を神からいただいている大勢の方がいらっしゃいます。しかし、一匹狼である場合、その素晴らしい人の働きは、その人が亡くなられたりすると継続されずに終わってしまう例があります。宣教広報に携わる人の場合には、素晴らしい能力と共に、他の人と協働できる人であることが求められています。

ある人は話すコミュニケーション能力が優れています。ある人は下手です。しかし、ある人は文章を書くことが上手です。ある人は、イラストを描かせればバツグンという人もいます。ある人はそれらの人をコーディネートすることが上手です。こうして、一人一人が違う能力でも、協働できれば、1＋1＋1＝3の足し算の能力ではなく、かけ算の能力になるといわれています。協働できる人は、互いに支え合い、補い合うことができる人です。

謙遜な人 ―― もう一つの大切な点は、謙遜な人であること。この点については、今更申し上げる必要もないくらいです。互いに支え合い、補い合うためには、相手は自分と性格も違い、育った所も違い、興味、関心領域も違うということをよく知り、協働するときに、その目的に向けてどの部分を伸ばし、どの部分を強調するか、ということが大切です。一人ずつの長所をしっかり把握していることが大切です。

コミュニケーション能力にしても、協働する場合にも、誠実さということにおいても、謙遜ということは深い関係があります。特に上に立つ立場をまかされた時は、謙虚さが必要です。「私が」「私が」ではなく、協働で、共同体として宣教広報活動をしているのだということを忘れてはなりません。

結局、どの点を取り上げても、すべてが一つにつながっています。

私たちはカトリックの宣教広報活動において、対外的にも、対内的にも、伝える内容はすべて信仰内容と深い関わりがあり、それを伝えており、その意味で、私たちは福音宣教者でもあるのです。

人事異動・任命（教区）

新しい任命は〔　〕内と兼務する。
任期は復活主日後の異動日前まで。

【1月15日付】
中村　倫明師　佐世保地区長代行〔三浦町小教区主任〕
岩下　和樹師　相浦小教区主任〔大崎小教区主任〕

【1月21日付】
下窄　英知師　教区本部事務局長退任
中濱　敬司師　教区本部事務局長代行

トビア会からの提案を研修

司祭研修会

2月4日（月）午後1時から大司教館で司祭研修会が開かれた。長崎教区の引退司祭の生活について配慮する「トビア会」からの提案が今回の研修内容。集まった教区内の司祭、修道者たちが熱心に耳を傾け、質疑応答を通して一つずつ理解を深めた。

研修会の座長は教区司教総代理の山脇 守師（滑石教会）。まずこれまでトビア会で話し合われた内容の報告があり、次いで引退司祭の現状報告があった。この日は第10回、第11回トビア会の決議を受け、「介護を必要とする引退司祭の住まい」をどこに建て、運営費用をどのようにまかなうかに集中して議論を進めた。

建設候補地は2カ所、スタッフの人員配置と給与案が2案、引退司祭施設運営費の拠出方法として、一口3千円の協力金、司祭団からの応分の拠出、小教区からの捻出、教区からの支出などが考えられている。

いずれも複数の案が提示され、その場での結論には至らず、地区に持ち帰り、次のトビア会までに返答することとなった。すべての司祭がよりよい形で人生を全うできるよう、引き続きトビア会で検討される。

ぶどう園

▼教区青年黙想会　3月3日(日)10時～17時、長崎大司教館。対象・18歳～35歳（独身男女）。参加費千円。聖書と昼食持参。

▼日本の信徒発見の聖母記念ミサ　3月17日(日)19時、大浦天主堂。

▼ナザレの会　3月18日(月)10時～13時、旧出津救助院。参加費千円（昼食含む）。祈りとみ言葉を味わう時間、他。お告げのマリア修道会主催。申込先・（担当）Sr.下窄 TEL 095-846-8300

✝主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館 奈留会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
24時間営業
五島市上大津町 1385 番地 1　TEL (0959) 74－5551　FAX (0959) 74－5552
五島市奈留町浦 1899－1　TEL (0959) 64－3101　FAX (0959) 64－3102

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村 勇二
長崎市辻町 7-18　TEL(095)844-4011　FAX(095)843-9896
24時間営業

世界平和へ祈りを…
明治石材
長崎本店　長崎市城栄町13-1
大村店　大村市赤佐古町287番地
HP　http://meijisekizai.shopinfo.jp
業務内容
お墓建立
納骨堂販売
お墓のリフォーム
霊名彫刻
電話 (095)846-3598
電話 (0957)50-3008

主の光の中を歩もう（イザヤ2・5）

2019年、長崎教区内で司祭叙階の節目（60周年・ダイヤモンド祝、50周年・金祝、25周年・銀祝）を迎える司祭は次の方々。現在、教区外におられ、記念の節目を迎える長崎にゆかりのある司祭のためにも合わせてお祈りください。

ダイヤモンド祝

神父還暦

コンラード　濱田盛雄神父

聖コルベの聖母の騎士小神学校、修練、誓願…大神学校は東京で。昭和34年3月東京・神田教会で20名の叙階があり、現在がある。

多くの思い出と共に、余生を神様と支援者方への感謝にささげたい。

略歴　コンベンツアル聖フランシスコ修道会司祭。1932年9月5日平戸市生まれ。宝亀教会出身。59年3月18日東京・神田教会で司祭叙階。同年4月聖母の騎士学園。60年本河内小教区主任、65年聖母の騎士修道院長、69年管区評議員・会計係、73年聖母の騎士社代表、聖母の騎士修道院長時代の81年2月26日には来崎した教皇ヨハネ・パウロ2世を迎えた。同年12月副管区長、管区事務局長。その後、東村山修道院長、本河内主任、聖母の騎士修道院長など歴任。2002年東長崎主任、10年から湯江助任、同修道院長。

金剛石（ダイヤモンド）も研かなければただの石。叙階60周年を迎えて今思うことは、毎朝祭壇上で主の尊い体と血を信仰体験し、生かされているということ。小学生時代、第2次世界大戦の末期、日本を守るために生命をかけろと教えられ、本気でその気になっていた。

終戦の半年前、兄の1人が台湾沖で戦死、ますます国を守る気持ちは強くなった。少年航空兵を目指した少年、昭和20年8月終戦、その目標が消えた。何を目指せば良いか迷っていた時、神学校を勧めてくれたのは当時教理指導の「教え方」と濱田朝松主任司祭だった。

叙階式・選任式のお知らせ

場所：浦上教会

叙階式　3月21日（木）10時30分

司祭叙階受階者

ドミニコ　宮原大地　（桐）

助祭叙階受階者

ヨセフ　青田憲司　（浦上）

シモン　稲田祐馬　（八幡町）

選任式　3月17日（日）14時

祭壇奉仕者受任者

ステファノ　ナム・シジン（テグ教区・サンモ）

パドアのアントニオ　西田祐尚（まさなり）　（飽の浦）

朗読奉仕者受任者

ヨセフ　鼈甲屋（べっこうや）賢治（宝亀・中野）

金祝

新たな初めに

ヨハネ　橋本勲神父

司祭叙階の恵みを拝受して50年、約1万8千回余の回数、主の祭壇に登り続けたことになります。すべての人と連帯し、その喜びと希望、悲しみと苦悩を携えて祭壇へと向かい続けた日々は、何物にも代えがたく言葉を絶するものがあります。

祭壇上の営みは秘跡ですからそれはすなわちイエス・キリストの直接の行為、世界を救う行為であることは言うまでもありません。こんな世界的信仰の視野へと導かれた50年でもあったと、その感慨に一人浸っているところです。

ラッキーナンバー「七」を七回重ねて、新たな初めの「一」を刻む。これが五十周年の意味だとか。

新たな老春の初めに一瞥でも賜れば、無上の感謝感涙です。

略歴　1942年6月21日平戸市生まれ。紐差教会出身。69年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年出津小教区、71年飽の浦、75年紐差で助任。71～75年長崎カトリック青年連絡協議会指導司祭。85年木鉢主任、89年から要理教育研究所所長兼務、97年カトリックセンター司牧企画室長、2003年教区総代理、教区本部事務局長。09年上神崎主任。15年から中町主任・長崎南地区長。

銀祝

枢機卿様の一言

洗礼者ヨハネ　湯浅俊治神父

高校を卒業して神学校に入る前に、私は里脇枢機卿様とお会いしました。その時に頂いた言葉は、司祭職を生きるのなら、人生を振り返るな、わき見するな、ひたすら前を見て進め、ということでした。私はその時、自らの生涯を司祭職という生き様にかけた一人物の姿をその言葉に垣間見た思いでした。

枢機卿様に倣い、ひたすら前に進んできたつもりです。この25年、すべてが順調ではありませんでしたが、悔い無しです。

ひと区切りを迎え、「さあ、前進だ」と思っています。これまでお世話になりました。これからも、よろしくお願いいたします。

略歴　1966年6月24日長崎市生まれ。浦上教会出身。94年3月17日浦上教会で司祭叙階。中町小教区助任、ローマ教皇庁立聖書研究所、福岡サン・スルピス大神学院、日本カトリック神学院。

わたしを通り過ぎた風

ミカエル　山川忠神父

叙階した1969年は、ニール・アームストロングが月面に小さな一歩をしるした年です。わたしの叙階も同じ、神の国に降り立つ小さな一歩でした。あれから50年、瞬く間に歳月は流れましたが、はたして祝って貰えるほどの境涯が内に生まれているのでしょうか。

これまで、わたしを通り過ぎた風、それは人だったし、神だったと言えるでしょう。いただいた霊の働きとお恵みに一つずつ謝意を表したいです。

これからも祈りのうちに日々を深めてまいります。どうぞお祈りください。有り難う。

略歴　1942年9月17日五島市生まれ。水ノ浦教会出身。69年3月19日浦上教会で司祭叙階。同年4月青砂ヶ浦小教区助任、同年12月浦上助任。73年山田、79年浜串、84年貝津、87年香焼、95年水主町で主任。また71～73年長崎カトリック勤労者連盟指導司祭、93～2000年海星高等学校非常勤講師。04年浦頭、05年俵町、08年神ノ島で主任。11年教区本部事務局、15年上神崎主任、17年伊万里トラピスチヌ修道院。同年7月引退。

向こう岸に渡ろう

シモン　浅田照明神父

40年前、同級生の手向けの言葉を胸に刻み込み、フェリーに乗り神学校へ。15年後、信徒の激励を餞（はなむけ）に兄の船で新司祭として福江島へ。

そして、今は「向こう岸に渡ろう」とのみことばに導かれてか、いつも優しく愛をもって送ってくれた故郷が司祭館から見える対岸で司牧をさせていただいています。

たしか、教報の「司祭叙階を前にして」で信徒のお祈りと励まし、支え、愛が風に乗り神様に届けられていたおかげで司祭になることができたと書きましたが、ここまで来られたのも同様です。どうぞ「恐れることなく、沖に漕ぎ出し」進めるようお祈りとお導きをお願いします。

略歴　1966年10月11日佐世保市生まれ。黒島教会出身。94年3月17日浦上教会で司祭叙階。同年福江小教区助任、97年中町助任。98年褥崎、2005年桐、11年西木場で主任。17年から太田尾主任。

心と体のぜい肉

ミカエル　大水文隆神父

西の空を見上げ、遠い故郷を思いながら仕事に励んでいます。東京では歩く機会が多いからでしょうか、この2年でほんの少し身軽になりました。それでも、鏡に映る自分と25年前の写真を見比べると、心にも体にもぜい肉がついてしまった現実を突きつけられます。

「わたしはいつも　あなたとともにいます　あなたがわたしの右の手をひいてくださるからです」（詩編73・23）。叙階記念の御絵に添えたみことばを見るたび、両手に余計なものを握りしめていないか反省させられます。初心に返り精進いたします。感謝のうちに。

略歴　1967年10月8日新上五島町生まれ。曽根教会出身。94年3月17日浦上教会で司祭叙階。同年長崎カトリック神学院、95年大司教秘書、2005年教区書記官（兼務）、06年宝亀小教区主任、12年三ツ山主任・教区広報委員長、17年カトリック中央協議会事務局次長、18年同事務局長。

司祭叙階を前にして

新たな一歩に向けて

ドミニコ　宮原大地　助祭

神学院生活は、日数でいうと休学なく滞りなく歩んできましたが、内面では何度も立ち止まりました。司祭召命以外の生き方を探して、何度も神学院を辞めようと試みました。特に小神学校、コレジオ時代に関わった方々に、多大な迷惑をかけていたことを思い出し、生意気だった自分にげんこつしたい気持ちです。

同時に、本当に大事に見守って育ててくださった恩人の方々に感謝しています。これまで、私自身の力ではなく、多くの方々の信仰によって私の神学生としての歩みは支えられてきました。

あるシスターから数年前にいただいた手作りの十字架をずっと首からかけていました。これは私が神学校を辞めないための見張りと思っていましたが、先日ついにちぎれてしまいました。愛用していたものなので一瞬悲しかったのですが、神学校を卒業する時が近づいていて、その役目を終えたのだと感じました。また、ただ身に着ける物に頼るのではなく、「イエスが歩んだ十字架を心から望んで私自身の内に刻んで歩めるように」との志が心に浮かんできました。

司祭叙階を目前にして、「良い神父様になってください」と期待と励ましの言葉をいただきます。私は未熟で足らないところが多いので不安が大きいですが、「どうにか普通の司祭になれるよう」「誠実に奉仕させていただきたい」と決意しています。今後もお祈りくださいますようお願い申し上げます。

略歴　1990年4月2日新上五島町生まれ。桐教会出身。2003年奈良尾中学校入学。06年長崎カトリック神学院、南山高等学校入学。09年長崎コレジオ、長崎純心大学入学。13年日本カトリック神学院入学。18年3月21日浦上教会で助祭叙階。

感謝と喜びの時を共に

お告げのマリア修道会　終生誓願式

1月14日（月）、お告げのマリア修道会本部（長崎市小江原）で終生誓願式が髙見三明大司教の司式で行われた。シスター大水奈都美（福崎教会）とシスター中尾智美（大山教会）の2人が、それぞれの家族、親戚、友人、知人たちの祈りの中で終生誓願を宣立した。

多くの恩人の司祭も共にミサを捧げ、2人の出身教会や赴任先の信徒の方々も大勢参加し、共に祈り、喜びを分かち合った。

式後は会場をホールに移して姉妹たちの心づくしの手料理で感謝と喜びの時を過ごした。若い姉妹による清らかな歌のプレゼント、志願者からは、すべて自分たちでプロデュースした劇『岩永マキ』が披露された。お告げのマリア修道会の起こりを紹介するとともに、会員にとっては創立の精神を思い起こさせるものであった。終生誓願を宣立した姉妹と共に原点にかえる機会となった。

下五島地区合同堅信式

大司教、受堅者を励ます

1月20日（日）福江教会で下五島地区の合同堅信式が行われた。24人（中学生20、大人4）の受堅者が高見三明大司教により堅信の秘跡を受けた。

式の中で大司教は、堅信の秘跡の意味を分かりやすく説明し、聖霊に支えられながら苦しいことがあっても社会の中で、信者としての証しを行うよう励ました。式後、受堅者代表が感謝の言葉を述べ、皆で記念の集合写真を撮った。

司祭の1人は、「少子化の影響で受堅者が減ってきているが、この中から将来の司祭・修道者、教会のリーダーになる人が出てくるかもしれない。そういう意味では、大切な式であることは言うまでもない。堅信式が受堅者にとって信仰の踏み台となり、教会や社会の中で活躍できる信徒になることを期待したい」と話していた。

長崎地区の堅信式

長崎中地区と北地区の次の教会ではそれぞれ、高見三明大司教を迎えて堅信式が行われた。日程と教会、人数は次の通り。

1月13日浦上（中学生27、大人12）、27日水主町（中学生6、大人3）、2月3日本原（中学生8）、10日城山（中学生6、大人8、浦上の中学生1、中町の大人3）。

キリスト教一致礼拝

カトリック教会と諸教会が共に祈る

毎年1月18日～25日に全世界で行われる「キリスト教一致祈祷週間」に合わせ、カトリック長崎大司教区と長崎キリスト教協議会主催による「第8回長崎キリスト教一致礼拝」が、1月20日（日）14時から西坂・聖フィリッポ教会で開催された。今年のテーマは「ただ正しいことのみを追求しなさい」（申命記16・18―20）。

司式はカトリック中町教会主任司祭の橋本勲師。説教は日本聖公会長崎聖三一教会司祭、柴本孝夫牧師が担当し、柴本師は、「長崎にあるカトリック教会と諸教会が一つになり、神の国を求めていきたい。良き業のうちに共に宣教に励んでいきましょう」と呼び掛けた。

平和のあいさつでは参加者皆が握手を交わし、温かい雰囲気が会場を包んだ。

子どもと女性の人権相談室

最初のご相談はお電話でお願いいたします。詳細は各小教区に配布されているポスターをご参照ください。

場所　カトリックセンター別館
連絡先　095・865・7829
時間　月～金　10時～16時
＊第3月曜日と休日（祝日・教区本部事務局休業日など）を除く

相談室室長　マリア 福田真理

学びの場を通して

教区生涯養成委員長　谷脇誠一郎

教区シノドスの意向を受けて2018年度から各地区でカテキスタ養成講座が始まりました。このことに伴い、それまで要理教師2級資格取得の養成を兼ねていた生涯養成委員会主催の信仰養成講座は、2018年度より要理教師養成を取り除いた新たな形でスタートしました。今年度はカトリック・センターで毎月1回の講座を計11回行い、そのうちの1回は公開講座という形で開催いたしました。

昨年度までは年30回以上の講座を開催していましたので、大幅に回数が減ったことになります。また、取り扱う内容も、昨年度までは要理教師の養成のため『カトリック教会のカテキズム』を中心とした専門的で難しい内容でしたが、今年度は信徒の皆さんにとって分かりやすく、日常の生活の中で抱えている疑問や悩みに応えるようなテーマを取り扱うように心がけてみました。例えば、典礼における動作や所作、ゆるしの秘跡、典礼暦や葬儀、結婚と家庭生活、教会の5つの掟、教会の組織、聖人や殉教者、巡礼などのテーマを取り扱いました。

キリストが私たちに伝えようとしたことは、いい意味で単純で、どんな人にも分かりやすく納得のできるようなものであるはずです。しかし、それを自分たちで難しく複雑なものとしてしまっているのではないか、という反省がいつも私の中にありました。信仰養成講座や聖書講座の目的は、高度な知識を身につけることではなく、信徒の皆さんがキリストをより身近に感じ、自分自身を見つめ直し、召命を見いだすきっかけを作ることだと考えています。

皆さんのご意見なども伺いながら、さらに親しみやすい学びの場を提供できるように努めていきたいと思います。

教区生涯養成委員会主催の2019年度信仰養成講座は4月27日から始まります。また、聖書講座は5月9日からのスタートです。詳細は、後日各小教区に配布される案内をご確認ください。

短信

〈ゆりの会主催のミサ〉

自死で亡くなられた方々のための追悼ミサが1月26日（土）福江教会で行われた。大瀬良直人師をはじめ数人の下五島地区司祭団が共同司式をし、参加者と共に祈りをささげた。ゆりの会主催、教区人権委員会協力。

〈司祭団マラソン大会〉

1月29日（火）司祭団マラソン大会が五島で開かれ、堂崎天主堂～福江教会間を走るフルと駅伝、浦頭教会～福江教会間をたどるウオーキングの3つのコースに、教区や修道会の司祭、信徒ら合わせて29人が参加した。沿道にはシスター、信徒、保育園の子どもたちが応援に駆け付け、大いに盛り上がった。

〈上五島で信徒の集い〉

上五島地区評議会主催の「信徒の集い」が2月10日（日）、石油備蓄記念会館で開催された。この集いは2年に一度行われている。今回はイエズス会日本管区長のデ・ルカ・レンゾ師を講師に迎え、「教皇フランシスコを語る」と題して講演があった。教皇訪日に関する正式発表が待たれている現在、興味深い内容に参加者は皆、聴き入っていた。

感謝

―寄付―

長崎大司教区
●樽角 進様（水ノ浦）

―香典返し―

長崎大司教区
長崎カトリック神学院
●橋口キメ様（出津）
故マチア
橋口朝光神父様

右の方々からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

みことばにふれて 157

山口 雅稔 神父

（コンベンツアル聖フランシスコ修道会、本河内教会）

「夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した」（マタイ1・19）。

イエスがお父さんと呼んでいたヨセフの言葉は、聖書の中に一言もありません。ただ短い聖句からヨセフのことを知るしかありません。しかし、その短い聖句を深く洞察しながら聖ヨセフがどのような方であったかを教会は知ろうと努めてきました。それは、イエスをよりよく知り、神によりよくお仕えし、キリスト者としてよりよく生きるためであります。

ヨセフは「正しい人」であり、律法に忠実であろうとした方です。そして、その正しさの根拠を自分に置くのではなく、神の恩恵に置いていたので、自分の正しさを主張してマリアを訴えることをせず、表ざたにするのを望みませんでした。この「表ざたにしない」ヨセフの態度は今の社会に必要とされている態度ではないかと思います。テレビやインターネットの情報を観れば、人間がいかにゴシップやスキャンダルが大好きかなのかがよく分かります。しかしヨセフは違います。父親が誰か分からない子を宿したマリアのスキャンダルを表ざたにするのを望みませんでした。ヨセフがマリアのことを表ざたにしたらマリアは殺されます。ヨセフはマリアの命を守る決心をした後、夢で天使のお告げを受けます。ヨセフは正しい選択をしたのです。

また、ヨセフは「ひそかに」縁を切ろうと決心しました。マリアが辱めにあわないように「ひそかに」です。このヨセフの「ひそかに」は、弱者へのいたわりやあわれみなどから生じる愛の配慮です。強者の不正を見逃してうやむやにするような隠蔽とは異なります。ヨセフは正しいことを愛をもってするため、「ひそかに」ことを運ぼうとされたのでしょう。

「表ざたにしない」ことと「ひそかに」ことを運ぶこと、この慎み深いヨセフの二つの態度をわたしも心がける必要があります。

三月は聖ヨセフの月です。教会がスキャンダルやゴシップに翻弄され混乱し、イエスの愛から離れそうな時、イエスとマリアを保護した教会の守護者である聖ヨセフが、愛のある正しい態度と慎み深い態度を与えてくださいますように。

アグネス 山﨑ひろみさん

（長崎教区会計職員）

1月30日、長崎市内の病院で逝去。68歳。

カトリックセンター建設当時から45年間にわたり、センター内にある教区事務所に勤めた。歴代の法人事務所長のもと、会計の他さまざまな仕事を誠実にこなし、司祭・修道者・信徒、職場の同僚から厚い信頼を寄せられていた。ここ数年は特に、病の中にあっても希望を失うことなく明るく前向きに、最後まで周りの人を気遣いながら日々の業務にあたっていた。見えないところで教区を支え、力を尽くし続けたその姿は、「教区で働く者」としての模範であり、謙虚さと信念、祈りのうちに生きる信仰者としての模範でもあった。

葬儀ミサ・告別式は1月31日浦上教会で、高見三明大司教司式により長崎大司教区葬として行われ、遺族をはじめ、約50人の司祭団と多くの人々が共に見送った。

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン　水浦 幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)(代)847－7151
844－1420
貨物保険有り
・一般引越　・小荷物
・荒ゴミ捨て　・遠距離
・学生引越　・ピアノ運搬

カトリック婚活パーティー
2019年3月31日（日）13時～16時　滑石教会
対象　カトリック信者で未婚の方　参加費　1,000円
締切　2019年3月24日（日）
申込先　カトリック滑石教会 婚活支援部
TEL 090-6293-2408（担当：畑原）
TEL 095-856-8623　（滑石教会）

人と人の絆を大切に・ご葬儀のご相談は
メモリードホール・典礼会館・中央斎場
長崎・諫早・大村・佐世保
株式会社メモリード　メモリード葬祭　検索　事務局　ペトロ　田川慶司
0120-44-6666

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口　晃
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL(0956)47－4380

不動産・会社・法人の登記や相続の手続
司法書士 山下 緑 事務所
代表者 ミカエル 山下 緑
所属 諫早教会　洗礼 井持浦教会　堅信 福江教会　結婚 浦上教会
〒854-0072 諫早市永昌町20-5　電話 0957-25-4886

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
長崎石彫（ながさきせきちょう）
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル